



この花食べられる？

多摩川住宅の周り（根川桜通り）には季節になると素晴らしい桜のアーチができる。その桜並木に隣接する染地小学校。3月28日、ほころび始めた桜の下を抜け、校庭の植物を観察させたいのだ。

体育館の西側には大きなクスノキが4本。校庭には青々とした芝生。そして正門の右の方に



芝生の校庭で「これから雑草を見て回るよ」

お手製の大きな説明用紙を使って「このタンポポは西洋タンポポ。花の下を反り返った緑色のところ（総苞そうほう）を見てごらん。」



もう花を咲かせたハルジオン。

あなたはよく似たヒメジョオンと見分けがつかない？

西洋タンポポ

オオイヌノフグリさわると花びらが落ちてしまう、かれんな花



オオアマナ 海外から来た園芸用の花が雑草となった物。ベツレヘムの星と言われる白い花を咲かせる。

ホトケノザ 春の七草のホトケノザとは別の種類。



## 校庭にも春が来た！



ナズナ ペンペン草とも言われる通り、三味線のバチに似た実を引っぱりぶら下げゆらゆらとシャラシャラと楽しい音が！



プールの横には ツクシも出てきた。



サクの内側には ノビルがびっしり、球根はエシャロットに似た大人の味。



カラスノエンドウはよく見るとチョウのような花がかわいらしい。花が終わると黒い豆ができる。



タネツケバナの咲くころ、タネモミを水につけてイネの苗を準備したという。校庭でよく見かけるのは外来種のミチタネツケバナ



ボクもムシメガネで見たい！（タチツボスミレ）



染地山の樹木は芽吹き準備中



## 花の履歴書④3

戸部英貞 (絵・文)

### ハラン (葉蘭) キジカクシ科



Aspidistra elatior

一日中直射日光が当たる場所では日焼けを起こしてしまう日陰を好む丈夫な植物で、ヨーロッパでも盛んに栽培され、和風、洋風を問わず室内で育てられる便利な植物。

ハランの仲間が中国を中心にインド東部、ベトナム、ラオス、台湾、日本などに85種の自生が知られ、その内59種は中国大陸で、そのほとんどが中国の固有種である。ハランも中国南部原産とされてきたが、中国に野生は見られず、鹿児島大学の研究報告によると九州南部の島々が本来の自生地とされている。

ハランの葉は薄いが硬く艶があり、地面から直立して密生して育つため、根元は他の樹木の枯葉などで覆われていることが多く、花を見る機会は少ないが、初夏の頃地下茎から地面すれすれにイソギンチャクを思わせるような多肉質の黒紫色の花を咲かせている。

ハランの名は、その葉が蘭に似ていて大きいことから中国名「馬蘭」

に由来し、『大和本草』(1709年)や『和漢三才図絵』(1712年)には馬蘭(ハラン)と記載されている。江戸時代以降はハランと呼ばれるようになり、葉蘭の字が当てられ、標準和名として使われている。

かつてはこの家にも植えられ、農作業やピクニックで外出する時のおにぎりなど弁当をハランの葉で包んで持参し、使用後はそのまま捨てても、植物の葉は分解してしまうので自然を汚すことにはならず、荷物にもならなかった。

今日でも高級料亭や寿司店では寿司を盛る搔敷(かいしき)や料理の盛り付けや葉を包丁で細工した飾りが使われている。

現在、折詰弁当の間仕切りや刺身についている緑色のプラスチックの装飾品(人造ハラン)をバランと呼んでいるのは、ハランやクマザサの葉を使っていたもの名残である。

## 2017.2.25 バードウォッチング体験

多摩川河川敷(京王相模原線鉄橋下～二ヶ領上河原堰付近)



カワラヒワ

今回は環境モニタールと子どもエコクラブの同時開催。講師は日本野鳥の会会員の里さん。最初に見えたのは広い河原で何か一斉についばんでいるカワラヒワ達。遠目にも羽の黄色がチラチラと分かる。スコップをかついだ講師やサポーターと少し下流へ移動すると、川岸の枯れたオオバタクサの枝でシジュウカラが一生懸命なにかをついばんでいる。種?それとも茎の中に小さな虫でもいるのだろうか。夢中になっているせいか私達が近づいても飛び立とうとしない。おかげで可愛らしいシジュウカラの特徴を間近で観察することができた。



ユリカモメ



コガモ

背中は驚色がかつたグレー。お腹には黒いネクタイ模様。このネクタイの幅が広いのがオスだというが、残念ながら、比べる仲間はいない。川の中には色どりの美しいコガモや黒いカイツブリ。カイツブリはもぐったあと、しばらく姿を見せず、「どうしたのか」と思った頃、少し離れた場所からやつと顔を出す。やけに肺活量が大きい(?)水鳥だ。今日観察できたのは20種ほど。人によってはチョウゲンボウやアオジも見かけたという。最後に「鳥合わせ」と言って観察したり鳴き声を聞いたりした鳥の名前を、皆で確認した。

文：環境モニタールNK  
写真：環境モニタールNK

## 調布あちこち

若葉の森



若葉小の正門前から続く坂道はさながら緑のトンネル。少し先に市民が市と協働で保全作業をしている緑地がある。ここ「若葉の森」の風景が大きく変わろうとしている。合計21区画の宅地造成工事がまもなく始まるからだ。下の写真奥の木立はすべて住宅になり、手前のシラカシの大木もこのままでは伐採されるとのこと。この素敵な森の景観を守る手立てはないか。地域住民・市・事業者の話し合いが続いている。(NK)





## ちょうふの崖線樹林を守る

## 入間・樹林の会

2月18日(土) 曇り時々晴れ

◆野鳥観察会 親子3世帯を含む12人参加  
講師は里さん。はじめに双眼鏡の使い方の説明をうけ、隣の畑で、ハクセキレイ、アトリの群れ、メジロ、オナガ、ヒヨドリを観察後、樹林地へ移動した。林内ではメジロ・シジュウカラ・コゲラの鳴き声を注意深く聴き、NTT研修センター内ではツグミ、メジロ、キジバトを観察できた。鳥に関心のある小2女子の参加は今後の楽しみとなった。

2月19日(日) 晴れ、参加者9人

木の処理とシャガの広場の民家横の下草刈りに分かれ作業した。太いアズマネザサが繁茂していたので伐採後は、アジサイ群がよく見えるようになり、花の時期が楽しみになった。誰が植えたのか雑木林広場の通路脇にスイセンが咲いていた。

3月18日(土) 5人参加

からみ藁の伐採、入口付近の土留め柵づくり、シャガの広場の伐採、市に依頼した伐採木の確認等を行った。エノキの実生調査の区域に立ち入りができないよう柵を作り今後の調査に活かすこととした。コブシの開花がみられなかったので今年はまだ遅いのか。花は、シャガ、ヒメオドリコソウ、ツルニチニチソウ、ハコベ、ヒサカキ、昆虫はムラサキシジミを確認した。ニリンソウは葉を広げていたので開花が楽しみである。(安部)



下草刈り後

## カニ山の会

2月11日(土) 晴れ 参加者15名

過去、植樹などのイベントに参加してきた方々の中から4人の参加を得て、根回しと薪割りのイベントを行った。



どんぐりをまいたクヌギがこんなに大きくなった。

薪割り楽しい！  
もっとやりたい！

3月11日(土) 晴れ 参加者13名

新たな方がお試して初参加。聞いてみると数年前に「自然だより」を見て、チャンスがあったら参加してみたいと思っていたとのこと。

出席者が多かったせいもあり、男性陣が行った通路の仕切り材設置もスムーズに完成。

女性陣と初参加の方は落ち葉かきとササ刈りなどを担当。落ち葉を掃いていると咲き始めたシュランが次々に顔を出す。思わず3人ともカメラを取り出しカシャカシャ。他には白ツバキやウグイスカグラの花も。(鍛冶)



## 若葉の森3・1会

2月5日(日) 晴れのち曇り

参加者8名

今年最初の作業日。  
初参加1名、心強い。

作業は、第1緑地中央通路土留め補修(第3緑地の伐採木などで横木・杭補修)。コンポスト柵補修。ギンラン生育地に湿度を保つように落葉を撒く。金網柵土台下の土の流出を市に確認依頼。

第2緑地では、シュロ・アオキ伐採。通路の落葉かき。全体にごみ拾い。土留め用竹6本伐採。スズメバチ危険区域を示すロープ張り



アオキ伐採



土留補修



柵土台下土流出

3月5日(日) 晴れ 参加者9名

最初に隣接する宅地造成事業に関して緑と公園課長から説明を受けました。保全活動区域の借地部分の返還と、ヤマザクラや境界付近のシラカシなど樹高20米以上の大木12・23本が消滅の危機。意見交換後、保全策を強く要望しました。

前半の作業は第1緑地の全体的整理(階段の杭の補修、六別坂の落葉かきなど)。後半は、第2緑地のキンラン・ギンランの育成地のササ刈り。

(NOK)



隣接宅造地の影響確認



ササ刈り

## 田んぼの学校

4月9日(日) 2017年度の開校式

午後は武蔵野市場近くの野川河川敷にて懇親会(お花見)を行います。

◆佐須の田んぼが残る

私たちが調布市の佐須で米作りを始めて25年が経ちました。昨年度は、私たちにとって記念すべき節目の年になりました。調布市が、佐須にある田んぼを残すことができる「深大寺・佐須地域環境資源保全・活用基本計画」を策定、田んぼの保全が現実となったからです。これらが市民の力の見せ所です。

◆米作りで思う事

米作りを始めて、色々なことを学ぶことができ、人が生きるといことがどういことなのかをあらためて考える機会となりました。

地球規模で起こっているさまざまな環境問題を解決するためには、グローバルな視点とローカルな視点での取り組みが必要です。「田んぼの学校」では、そのローカルな取り組みとして「田んぼ」のある環境を守ることを重要な目的にしています。「田んぼ」には環境問題を解決するヒントがたくさんあります。「田んぼ」の米作りをとおしてそのいくつかでも気づいていただければと考えています。

(田んぼの学校)

校長 尾辻



9月の田んぼ



## 野川のご機嫌うかがい☆水生生物調査☆

4月2日(日) 野川細田橋下 参加者9名 講師：石川和宏

をどけ、石の下や河岸の草の下などを網ですくってみる。石川講師はこともなげに次々小魚などを捕獲。一番多いのがヌマエビという小さなエビ。かき揚げにするにも小さすぎるか。もう一人の男性参加者もすぐにアメリカザリガニ捕獲。好きなうえに慣れている！

最後に代表の江刺さんから「化学的なバックテストは薬品の処分に気を使うし、その瞬間の数字が出るだけだが生き物を調べれば、一定の生息期間の環境の良し悪しがわかる」との説明。川のきれいさを決める指標生物という表もあるが、次回からは野川の場合の指標を決めておこうということになった。(レポートNK)



今日の水温は？

毎年恒例、身近な川を見守る会の水生生物調査に参加した。会員が水温・流速・流量を測ったあと、捕獲調査開始。長靴の先で石ころ



タモロコとモツゴ慣れないと見分けにくい、右から2番目、ウロコがはつきりしていて、受け口なのがモツゴ。横から見ると黒い線があるのですぐわかる。

いわゆるザザムシ成虫はヒゲナガカワトビケラという翅がある虫になるが、信州伊那地方などでは幼虫をつくだ煮などの食用としていたという。

ヌマエビ小さい方は1センチくらい。藻類を食べる、ということとでビンのビオトープで飼うことにした。

他に透き通って美しいスジエビも捕獲されたがそちらは肉食とのこと。

セキショウの花佐須用水が流れ込んでいる付近は見た目にも水がきれい。そこに咲く花、といったもピンとこないが若々しい黄緑色が美しい。



4月3日、若葉町3丁目第3緑地の「青空広場」の一面が薄紫色に染まっていた。タチツボスミレが去年以上に株数を増やして「一面に」という感じで花を咲かせています。冬場にアズマネザサを刈ったのが良かったのかもしれない。

あんまり見事なので見とれていると、ハナバチが来訪。あわててシャッターを切ったら、1カットだけ運良く写っていました。

ニッポンヒゲナガハナバチでしょうか。長い触覚(ヒゲ)が印象的ですが、長いのは雄だけだそうです。

(大村)

タチツボスミレが去年以上に株数を増やして「一面に」という感じで花を咲かせています。冬場にアズマネザサを刈ったのが良かったのかもしれない。



若葉の森はスミシの花盛り

## 環境市民活動スケジュール

### 入間・樹林の会

原則毎月第3日曜に樹林の保全活動を行っています。参加希望者は直接入間地域センターへ。

- 4/16 (日) 9:30～15:00 保全活動・植生調査・入間町2丁目観察会
- 5/21 (日) 9:30～12:30

### カニ山の会

毎月第2土曜に自然広場で保全活動を行っています。参加希望者は野草園横に直接集合。

- 4/8 (土) 10:00～12:00
  - 5/13 (土) 10:00～15:00
- ※原則、奇数月は3時まで作業をします。

### 若葉緑地の会

原則毎月第2日曜に若葉町3丁目第3緑地で保全活動を行っています。参加希望者は直接現地へ。

- 4/9 (日) 9:30～12:00
- 5/14 (日) 9:30～12:00

### 若葉の森3・1会

原則毎月第1日曜に若葉町3丁目第1・2緑地で保全活動を行っています。参加希望者は直接現地へ。

### 凸凹森の会

原則毎月第4日曜に上石原布田崖線緑地で保全活動をしています。

- 4/23 (日) 10:00～12:00
- 5/28 (日) 10:00～12:00

先の5団体の保全活動問合せは緑と公園課 042-481-7083

## 市民発 ちょうふの自然だより

◆「ちょうふの自然だより」はカンパとボランティアで支えられています。2009.3.15に設立された市民団体「ちょうふ環境市民会議」が自主発行しています。調布市内の身近な自然情報や市民の保全活動の記録、環境イベント案内、コラムなどを掲載、無料で配布しています。

発行：ちょうふ環境市民会議 連絡先：info@chofu-kankyo-shimin.org ※携帯メールでのお問合せには当方の返信が届かない場合があります。

## “自然だより”の置き場所を募集中です。

◆地域福祉センター、たづくり11Fみんなの広場、調布市環境部(市役所8F)、あくろす2・3F、郷土博物館、実篤記念館、多摩川自然情報館のほか、神代植物公園植物多様性センター、てらのサウルス(国領)、えねこや、みさと屋(布田)など。置き場所&応援カンパ募集中です！

◆会員募集！年会費1000円/サポーター会員500円 郵便振替(00150-9-765663 ちょうふ環境市民会議)

◆この自然だよりは ちょうふ環境市民会議ホームページにも掲載、バックナンバーもご覧になれます。◆